ストーンサークル

～北の縄文文化の謎を探ろう～

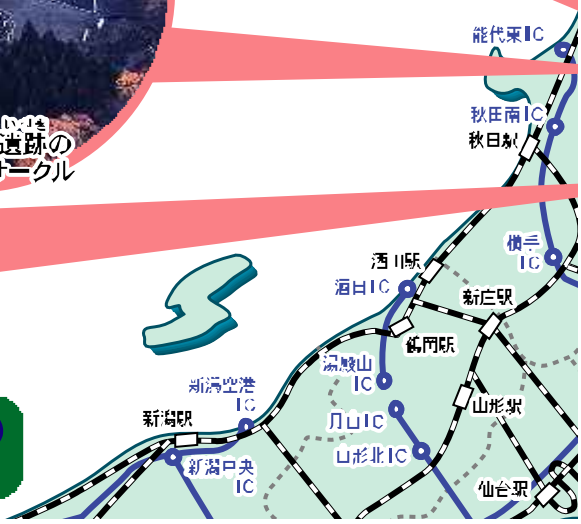
秋田県教育委員会

はじめに

「ストーンサークル」は、大小の石が環のように並べられたもの、つまり「石の環」で、これを英語ではStone Circleと言います。日本では「環状列石」と呼んでいます。

1万年も続く縄文時代の中で、ストーンサークルの多くは、今から4000年から3000年ぐらい前(縄文時代後期にあたります)に作られるようになります。北日本のストーンサークルは、たくさんの石を直径が50mを越えるほどの大きさに並べた巨大なものから、直径が4mほどの小さなものまで大きさはさまざまです。また、全体の形や石の並べ方にも、いろいろなものがあります。

ストーンサークル・ガイドマップ

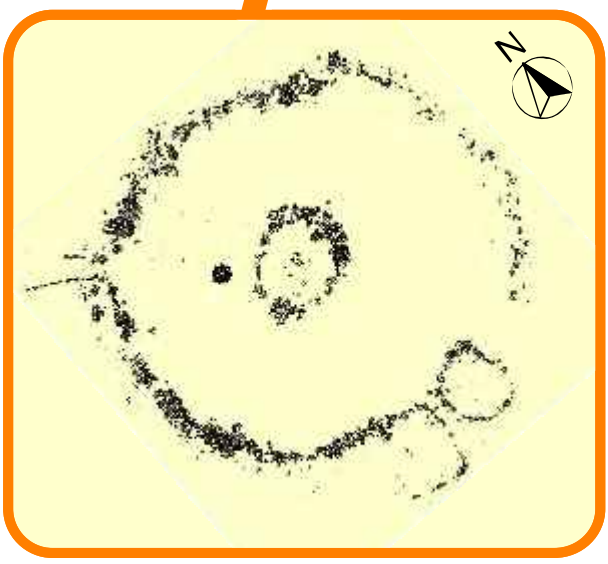


このページの地図には、実際に見学することができるストーンサークルやこれに関係のある遺跡（「遺跡」とは昔の人たちの住居やお墓などのさまざまな痕跡が地中に残っている場所のことです）などを示しました。みなさんもこの地図を見ながら、北のストーンサークルを訪ねてみませんか。

ストーンサークルのさまざまな形 1

今から1万数千年前から2千数百年ぐらい前までの時代を「縄文時代」、その時代の文化を「縄文文化」と呼びます。それは、日本列島が今よりももっと寒い時代(氷期と言います)が終わって米作りが始まる弥生時代までの間です。このころ、多くの人びとは、地面を掘り込んで床とした家(竪穴住居と言います)に住み、狩りや木の実集めで食べ物を得て、それを縄目の文様がある縄文土器で煮炊きして食べる暮らしをしていたと考えられています。

秋田県鹿角市にある大湯環状列石には、野中堂(写真右側)と万座(写真左側)という2つのストーンサークルがあります。野中堂のストーンサークルでは、外側の環の直径がおよそ44m、万座のストーンサークルでは、およそ52mもあります。石の環は、よく見るとすきまがあって、いくつかの石の塊がつらなってできていることが特徴です。



青森市にある小牧野遺跡のストーンサークルは、三重の石の環でできています。中央の環は直径2.6mほど、中間の環はおよそ30m、一番外側の環はおよそ35mあります。全体の形は、丸みをおびた正方形のようになっています。さらに、右上にはもう一列石が並べられていて、四重のストーンサークルを作ろうとしていたのかもしれません。

真上から見た小牧野遺跡のストーンサークル

小牧野遺跡のストーンサークルを描いた図

ストーンサークルには角みたいなのがついてるなあ

周りには小さなストーンサークルみたいなのもあるぞ

北海道森町にある鷲ノ木遺跡のストーンサークルは、三重の石の環でできています。外側の環の直径はおよそ37mで、きれいな丸い円になっています。

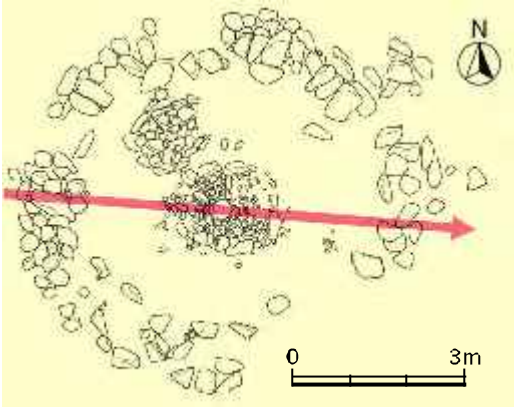
こっちはきれいなまん丸だね

真上から見た鷲ノ木遺跡のストーンサークル

鷲ノ木遺跡のストーンサークルを描いた図

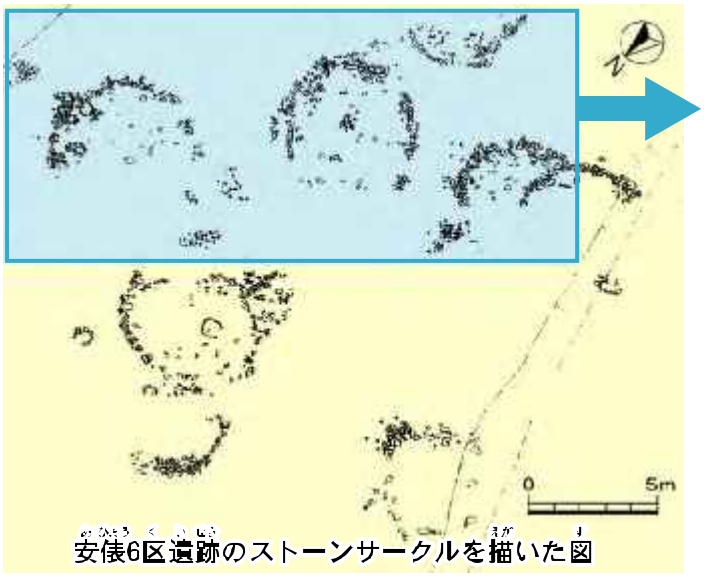
ストーンサークルのさまざまな形 2

岩手県花巻市の清水屋敷Ⅱ遺跡は、直径7mの小さなストーンサークルです。内側には2か所に石組みがあります。



清水屋敷Ⅱ遺跡のストーンサークルを描いた図

清水屋敷Ⅱ遺跡から北東に200mほど離れた安俵6区遺跡では、全部で8個もの小さなストーンサークルが見つかっています。大きなものでも直径が6mほど、小さいものでは4m足らずの大きさです。いくつかには石で囲った囲炉裏のようなものがあり、住居として使われた可能性も考えられています。



安俵6区遺跡のストーンサークルを描いた図

真上から見た安俵6区遺跡のストーンサークル

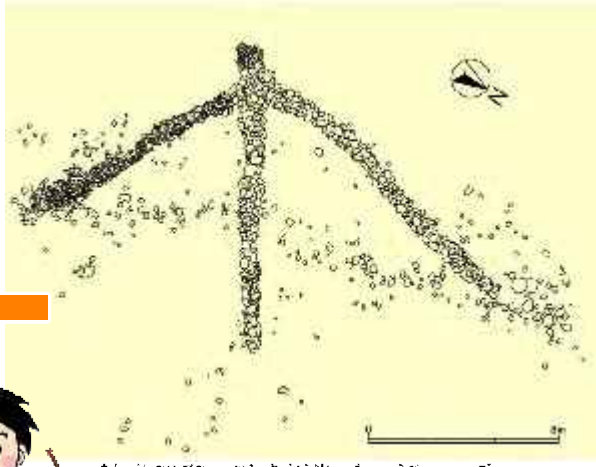
岩手県滝沢村にある湯舟沢環状列石では、長さ14mほどの弧状の石の列と長さ25m前後の真っ直ぐな2本の石の列が組み合わさったものが見つかっています。上から見るときれいな環にはなりませんが、これらをまとめてストーンサークル(環状列石)と呼ぶこともあります。

湯舟沢環状列石

湯舟沢環状列石を描いた図

岩手県陸前高田市にある門前貝塚では、環状ではなく、上から見るとまるで矢印か弓矢のように石を並べています。

門前貝塚の弓矢状配石


門前貝塚の弓矢状配石を描いた図

ストーンサークルの仲間と考えられるものには、ここで紹介した門前貝塚の弓矢のようなもの以外にも直線状に石を並べたものなどもあります。このころは、石をいろいろな形に並べることが流行していたようです。

ストーンサークルはどの地方に多いか？

ストーンサークルは、縄文時代後期に北日本で盛んに作られます。日本列島全体で見ると、関東地方などでは縄文時代中期の終わりごろ(今からおよそ4500年ぐらい前)に作られたストーンサークルが見つかっています。また、この時期には囲炉裏の周りに石を敷きつめた住居なども盛んに作られていて、このような石を使うことが、やがて北日本にも伝わって、ストーンサークルが作られるようになったという考えもあります。

このページの地図には、東日本でストーンサークルやその仲間が見つかっている主な地域を示しました。

地図を見ると、縄文時代後期の北日本では、30mを超えるような大形で環状になるものは秋田県北部から青森県、北海道の西南部で見つかっています。それから外れるところ、例えば岩手県の湯舟沢環状列石では石を弧状と直線状に組み合わせるように並べています。

それでは、なぜこの地域で同じようなストーンサークルが作られたのでしょうか？その理由ははっきりとはしていませんが、以前からこれらの地域は、北海道・東北地方のうちでも特に密接な関係があった、言いかえれば、人びとやモノの行き来が盛んに行われた地域であったと考えられているのです。

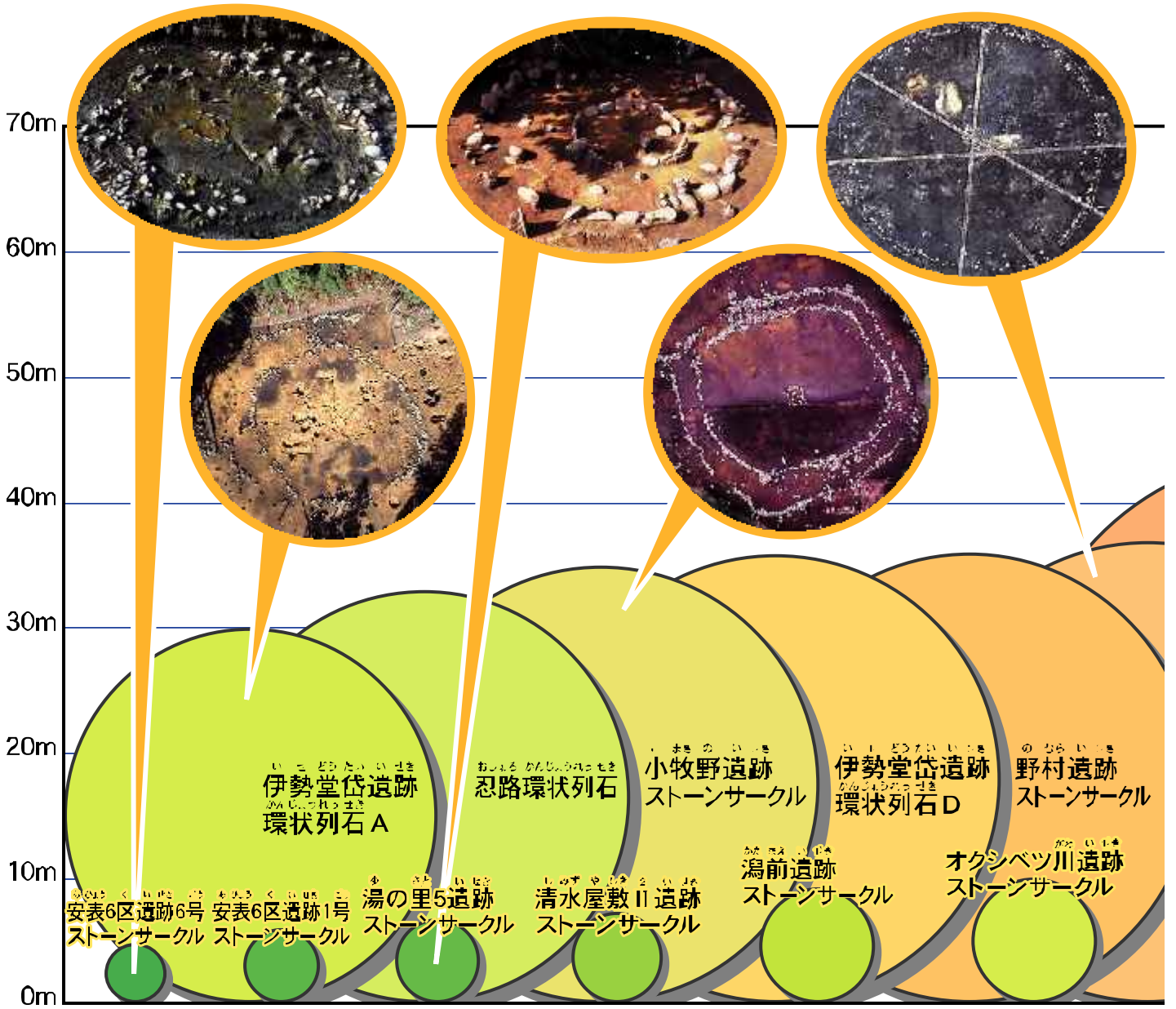
みなさんも、この地図を見ながら、ストーンサークルを作った人たちがどのような交流をしていたか考えてみてはいかがでしょう。

ストーンサークルの大きさ比べ

各地のストーンサークルは、詳しく見ると形はさまざまですが、大きさも直径が50mを超えるような大きなものから10m足らずの小さなものまでいろいろ見つかっています。ここでは、各地の代表的なストーンサークルの大きさを比べてみましょう。

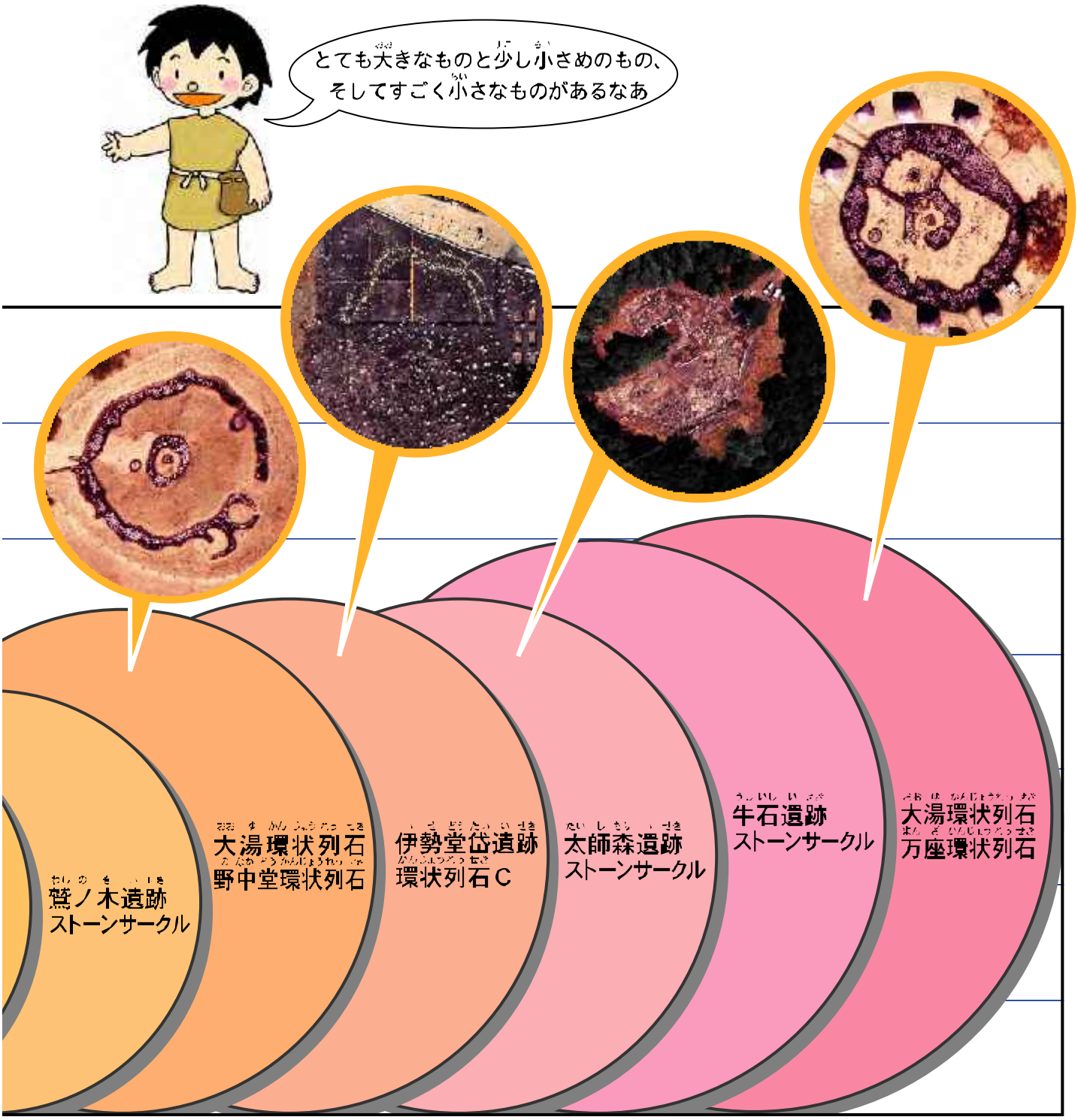
ストーンサークルの大きさを見ると、鷲ノ木遺跡、野村遺跡、伊勢堂岱遺跡の環状列石D、小牧野遺跡のそれぞれのストーンサークルでは、一番外側の部分の直径が35～37m前後となっています。今のところ最も大きなストーンサークルは、直径52mの万座環状列石です。

ストーンサークルの大きさ



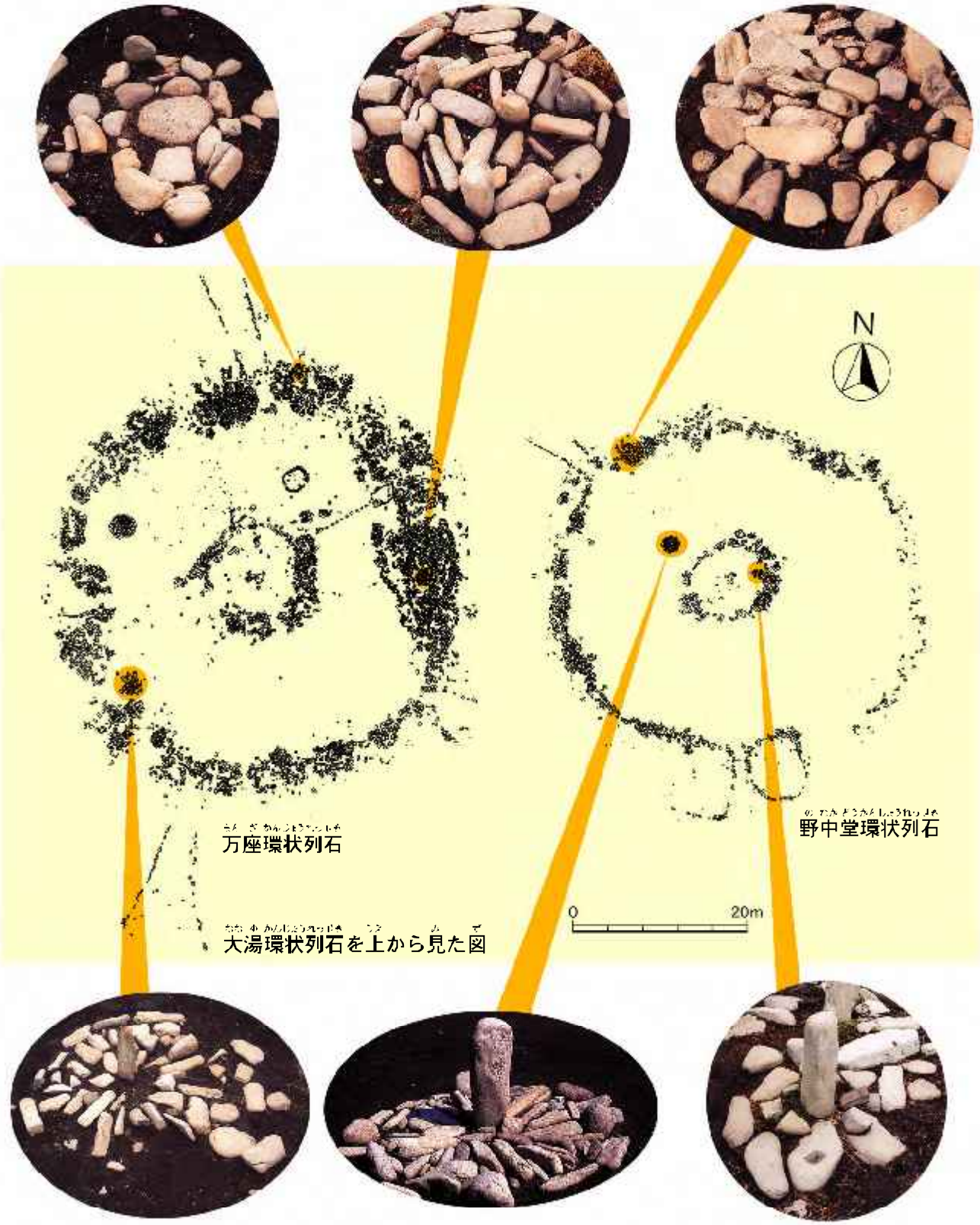
直径が30mを超えるような大きなストーンサークルは、数百個から数千個もの石が並べられています。例えば、大湯環状列石の万座ストーンサークルでは、全体で5000個ほどの石が使われていて、中には1個が200kgを越えるような巨大な石もあります。

また、北日本各地で見つかっているストーンサークルの形がよく似ているので、ストーンサークルを作るための共通した設計図のようなものがあったのではと考える人もいます。



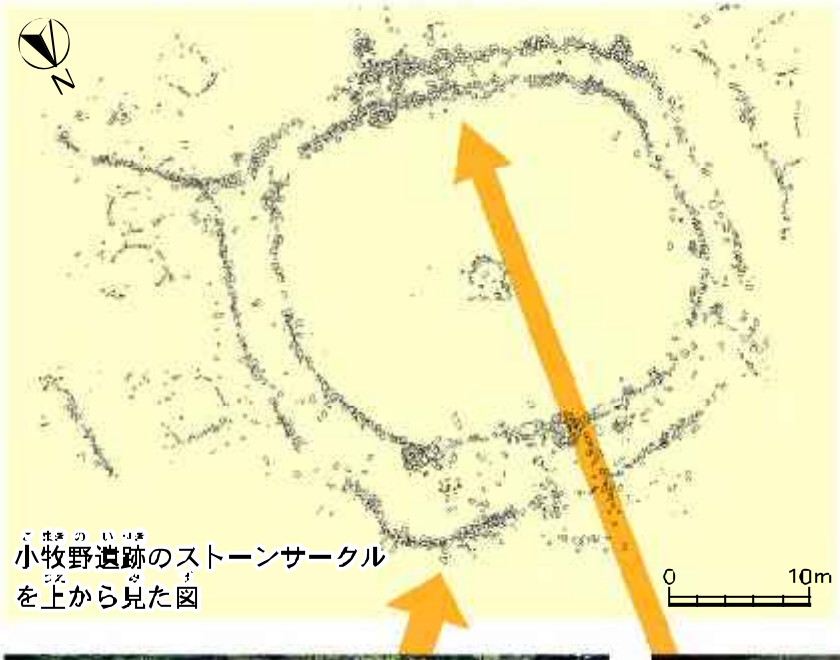
ストーンサークルの石の並べ方、作り方 ①

ストーンサークルは全体の形だけではなく、よく見ると部分部分の石の組み方にさまざまな形のあることに気づきます。ここでは石の並べ方やストーンサークル全体の作り方について、もう少し詳しく見てみましょう。



左の図は、大湯環状列石の万座と野中堂の2つのストーンサークルを、それぞれ真上から見た様子を描いた実測図です。いずれも二重の石の環となっていますが、さらにこれらの環をよく見ると、いくつかの石組みに分けることができます。言いかえれば、ストーンサークルはたくさんの石組みが集まって、全体で環になっているのです。また、二重の環の間などには、まるで日時計のような独立した石組みもあります。一部の石組みの下を調査したところ、多くのもので墓穴と考えられる穴があったことから、これらの石組みは墓穴の上の墓石のようなものではなかったかと考えられています。

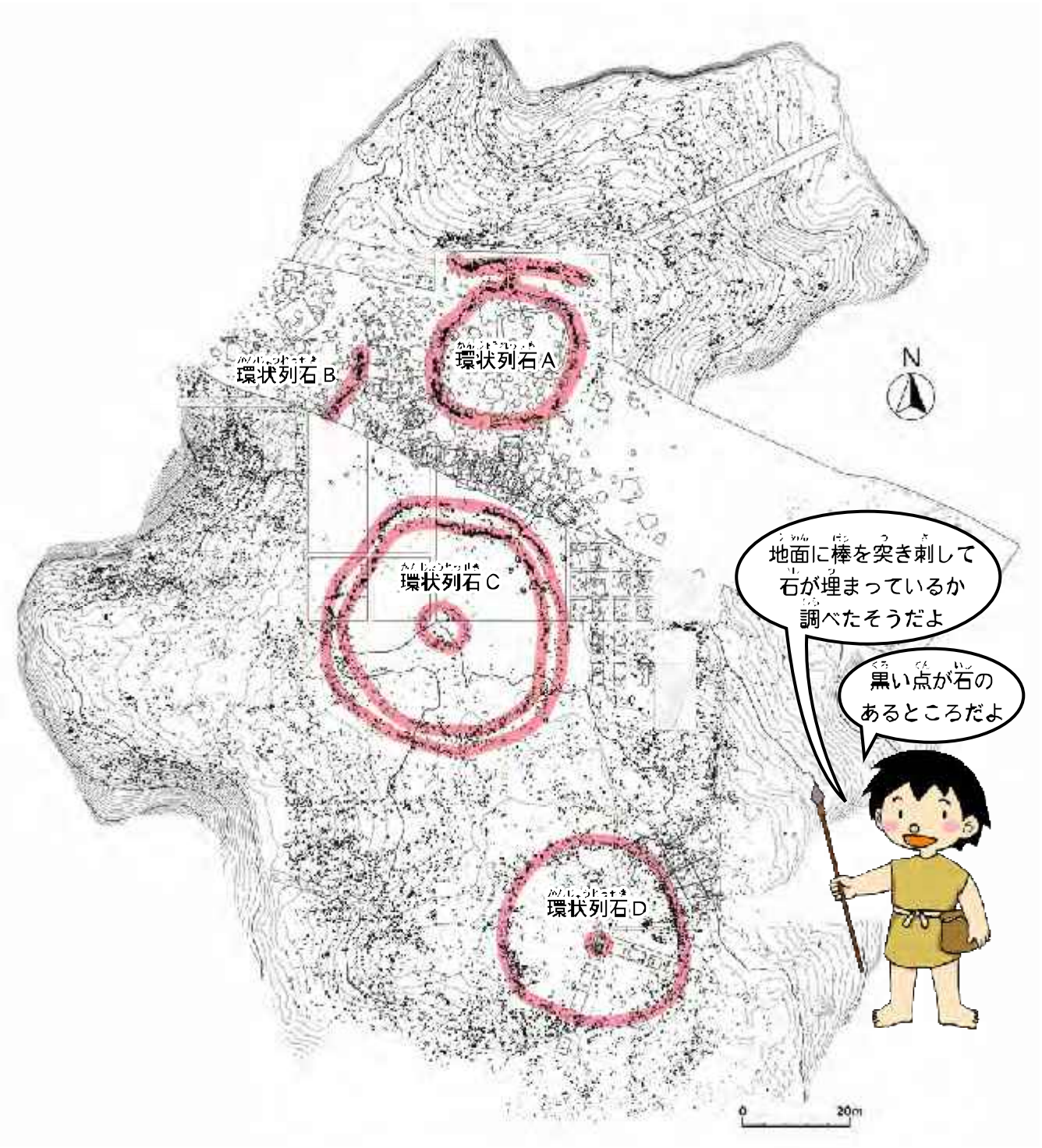
青森市小牧野遺跡のストーンサークルは、全体が石垣のように連続して巡っています。小牧野遺跡では、ストーンサークルを作る時に、土地ができるだけ平らになるように、高い部分を削って低い方に削った土を盛るような土木工事をしています。そして、土地を削って斜めになった縁の部分にまるで石垣のように石を並べています。縦に並べた河原石の間に横長に河原石を積み上げる特徴的な並べ方です。この石の組み方は、この遺跡の名前をとって「小牧野式」と呼ばれています。似た石の組み方は、伊勢堂岱遺跡でも見つかっています。



小牧野遺跡のストーンサークルを上から見た図

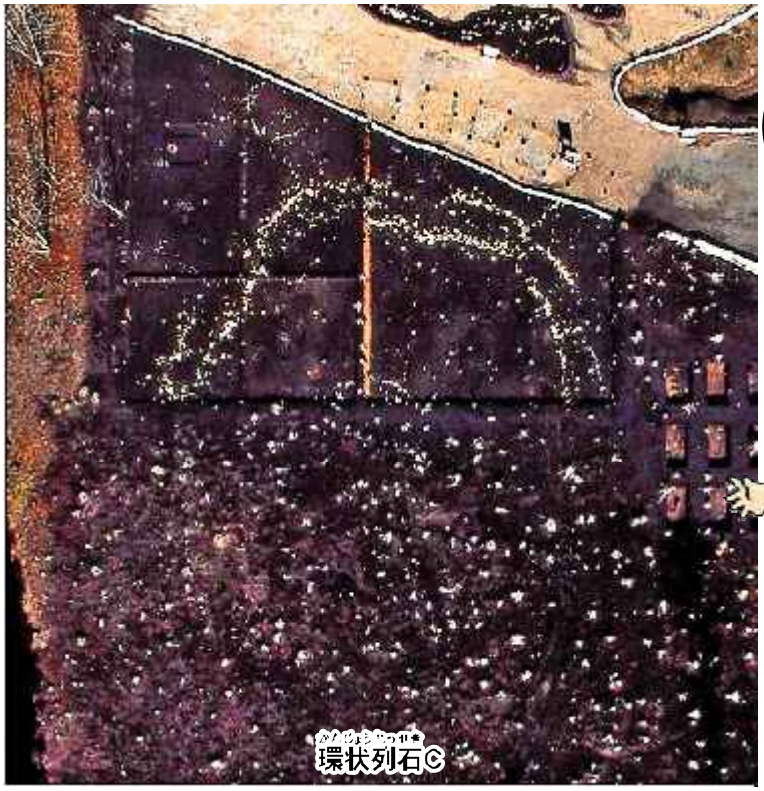
ストーンサークルの石の並べ方、作り方 2

伊勢堂岱遺跡では、全部で4つのストーンサークルが見つかっています。小牧野式の石組みがあるストーンサークルのほかに、細長い楕円形のような石組みが並んで環になるストーンサークルなどもあります。その理由は分かりませんが、同じ遺跡の中でもいろいろな石の並べ方、ストーンサークルの作り方があったことが分かります。



伊勢堂岱遺跡のストーンサークルを上から見た図

環状列石A


環状列石C

環状列石D

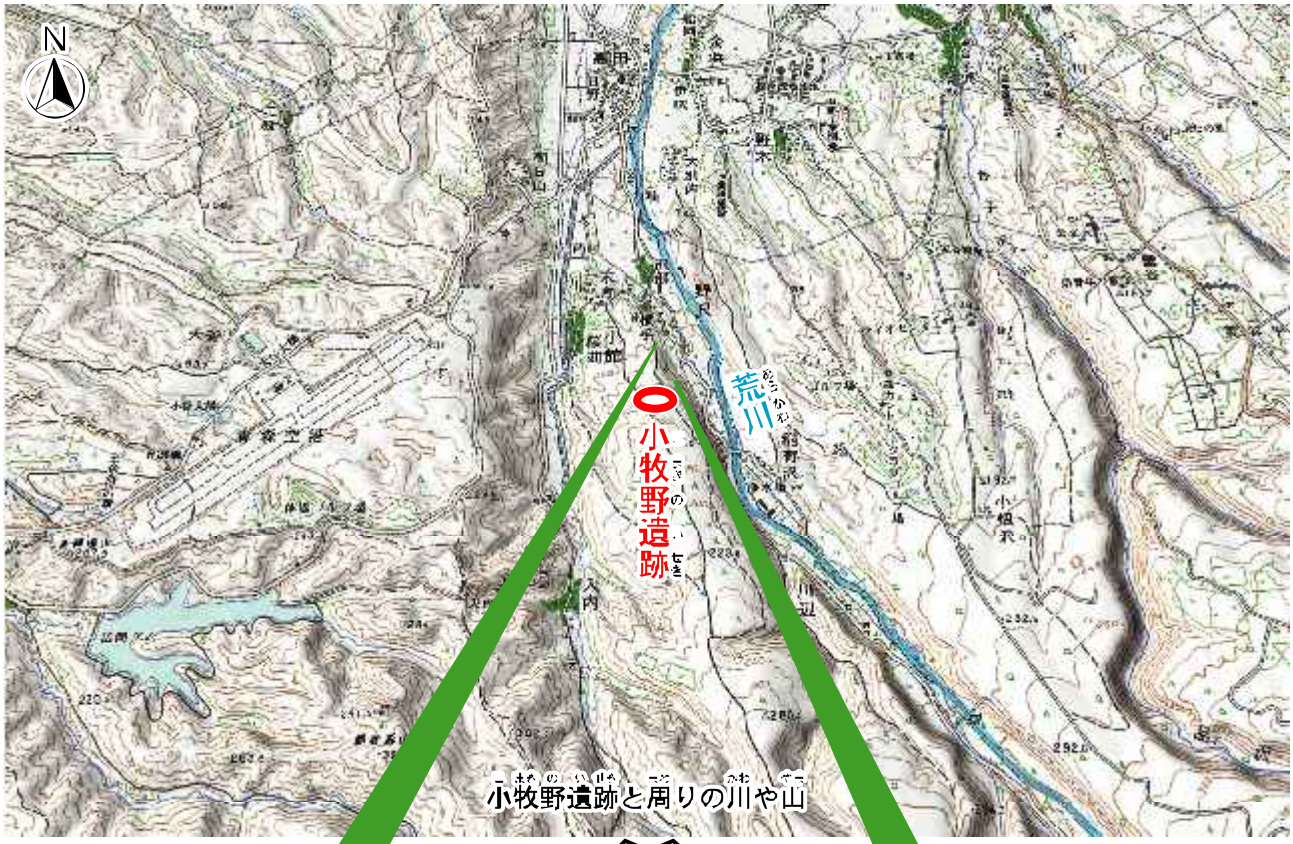
環状列石B

ストーンサークルの石はどこから？

ストーンサークルは、普通、見晴らしのよい台地の上に作られます。このような台地の上には、ストーンサークルの材料となるような河原石はほとんどありません。材料となる河原石は、台地の下を流れる川からわざわざ運んできたものです。さらに、河原からは手当たりしだいに石を持ってきたわけではないようです。ストーンサークルに使われている石には、200kgを超えるような巨大な石や、細長い棒状の石などもたくさんあり、形や大きさをよく見て選んできたことがうかがえます。例えば、大湯環状列石では、台地のすぐ下を流れる大湯川の河原からではなく、4km以上離れた安久谷川の河原から緑色の石を選んでわざわざ運んできたと考えられています。

大湯環状列石と周りの川や山

小牧野遺跡では、ストーンサークルのある台地の80mほど下を流れる荒川（堤川とも言います）から石を運び上げたと考えられています。小牧野遺跡では、それぞれ木ソリ、背負子（荷物を背負って運ぶ道具）、もっこ（綱を網のように編んだもの）を使って河原から石を運び上げる実験が行われています。実験の結果では、石の大きさにもよりますが、背負子を使って背中に石を乗せる運び方がもっとも運びやすかったようです。ただし、木ソリやコロなどで、みんなで力をあわせて、お祭りのように運んだという考えもあり、もっとも効率的な方法で石を運んでストーンサークルを作ったと考えるのは、あくまでも現代風の考えで、縄文人にはもっと別の考えがあったかもしれません。



小牧野遺跡と周りの川や山

木ソリで石を運んでいる様子

背負子で石を運んでいる様子

ストーンサークルは何のために作られたの？

大湯環状列石は、墓石がある墓穴が環のように集まったものという考えを、先に紹介しましたが、実は、大湯環状列石が戦後まもなく発掘調査されたころから、ストーンサークルが作られた目的については、もう一つの有力な意見がありました。それは、マツリをするための祭壇のような場所だったという考えです。

大湯環状列石が発掘調査されて以来、各地でストーンサークルが見つかって調査が進んでいます。青森市の小牧野遺跡では、大湯環状列石とは違って、お墓はストーンサークルの東隣に100か所以上作られています。ストーンサークルは場所を区画するために作られたようで、マツリのための神聖な場と考えることもできそうです。ただし、小牧野遺跡のストーンサークルには、亡くなった人の骨を納めた骨壺と考えられるものも見つかっていますので、お墓としても使われたものと考えられます。

大湯環状列石の近くで見つかった墓石を据えた墓穴

小牧野遺跡で見つかった骨壺

また、近年、ストーンサークルは、夏至や冬至などの特定の日の、日の出や日の入りの方向を意識して作られていたのではと言われています。例えば、大湯環状列石では、野中堂のストーンサークルの中心から万座のストーンサークルの中心を結んだ線の延長線上に夏至の日の太陽が沈むと言われています。大湯のストーンサークルを作った人たちにとっては、太陽の動きに重要な意味があったのでしょうか。あるいは、夏至の日にマツリをする風習があって、その時期を知るための目印としていたのかもしれません。

野中堂環状列石から見た夏至の日の日の入り

このようなことを見てくると、ストーンサークルはお墓であったとか、マツリのための祭壇のようなものであったとかいうようにはっきりと決めることは難しく、ある時にはお墓が作られ、ある時にはたくさんの人が集まっておマツリをするというように、いろいろな目的で使われたと考えたほうがよさそうです。

ストーンサークルを作った人たちの住まいは？

ストーンサークルを作った人たちの住居はどこにあるのでしょうか。例えば、大湯環状列石では当時の竪穴住居が16軒ほど、小牧野遺跡では数軒の竪穴住居がそれぞれ見つかっています。

小牧野遺跡で見つかった住居跡

大湯環状列石で見つかった住居跡

ところで、これらの住居は同時にあったものは少なかったようです。また、このほかのストーンサークルではお墓などはあるものの、住居が見つかっていないところも少なくありません。

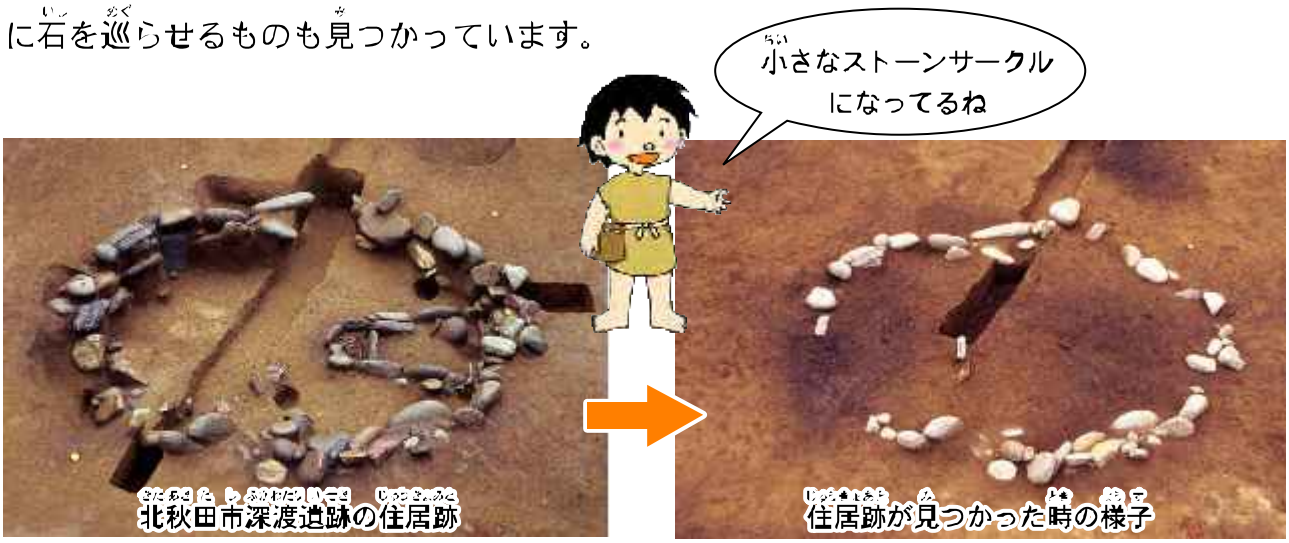
これらのことから、ストーンサークルの周りに住んでいた人たちだけでは、何千個もの石を運んで、ストーンサークルを作ったとは考えにくく、おそらく、遠くからもたくさんの人が集まって作ったようです。実は、ストーンサークルを作った多くの人たちが普段どこに住んでいたのか、あるいは、ストーンサークルの周りにはどのようなムラがあったのかといったことはあまりよく分かっていなくて、いわば大きな謎の一つなのです。

この謎について考える時の参考になるように、少し時間をさかのぼって、ストーンサークルが作られる直前の時代、縄文時代中期後半ごろ(今から4500年ほど前)のムラや住居の様子を見てみましょう。

縄文時代中期後半ごろには、当時の人たちのムラが見つかっています。中には、真ん中に広場があって、その周りに住居が巡る大きなムラ(「環状集落」と呼んでいます)もあります。

秋田市松木台Ⅲ遺跡で見つかった環状集落

また、このころには関東地方から東北地方南部にかけて竪穴住居の囲炉裏や出入口に石を敷いたり、石を巡らしたりすることが流行するようになり、北日本でも住居の囲炉裏や壁に石を巡らせるものも見つかっています。



北秋田市深渡遺跡の住居跡　　住居跡が見つかった時の様子

このように、縄文時代中期後半にはムラが見つかっているのに対し、縄文時代後期のムラはよく分かりません。これは、以前よりも気候が悪くなって、ムラの周囲だけでみんなの食べ物を充分に集めることができなくなったために、散らばって住むことになったせいではないかという考えがあります。大湯環状列石などで見つかっている住居は、散らばって住むことになった人たちの住居の一つ、中でもストーンサークルを管理する人たちの住居だったのかもしれません。

ストーンサークルを作った人たちのマツリ

ストーンサークルの内と外ではお墓を作ったり、さまざまなマツリをしたと考えられています。大湯環状列石では、墓穴の上に石を組んで墓石としていますので、今で言うお彼岸のような特別な日に、亡くなった人の家族や子孫がお参りするようなことが考えられるでしょう。

また、ストーンサークルの周囲には、大きさが4mほどの丸や四角く石で囲った配石遺構が見つかる場合があります。この中には火を焚いた跡があることもあり、ここで焚き火をするなどのマツリをしたことも考えられます。

このほか、大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡では、ストーンサークルの周りに建物が巡っていますが、この建物が人びとの住居かどうかはっきりしません。普段はストーンサークルから離れたところに住んでいた人たちがやって来て、この建物でマツリをしたのかもしれません。

小牧野遺跡の配石遺構

大湯環状列石の建物

これらのことからは、ストーンサークルは、人びとが家族が亡くなった時にやって来てお墓を作ったり、先祖の墓をお参りしたり、あるいは、かつて同じムラで一緒に生活していた人たちが、みんな集まって盛大なマツリをした場所なのでしょう。

ところで、大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡などでは、石で作られた矢尻やナイフのような普段の日常の生活に使った道具ではなくて、マツリの時に使ったと考えられる道具がたくさん見つかっています。これらの道具は、粘土で形を作って焼き上げたものと石を細かく打ち欠いたり磨いたりして作ったものとがあります。

いずれのものも、食べ物を獲ったり、木を切ったりする時に使うような、いわば実用的な道具ではありません。しかし、当時の人たちにとっては、マツリの時などに使う重要な道具だったのでしょう。

これらの道具は、どのようにマツリで使われたのでしょうか。残念ながら、実際の使い方はよく分かっていません。道具をよく観察しても、使った痕跡はほとんど分かりません。

これらの道具は、見つかった時にはあまりこわれていないものがほとんどなため、こわれたために捨てられたわけではなくて、マツリのたびに捨てられたのかもしれません。

伊勢堂岱遺跡の粘土を焼いて作ったマツリの道具?

小牧野遺跡の石から作ったマツリの道具?

ところで、北海道森町の鷲ノ木遺跡などでは、ストーンサークルの中からは、マツリの道具と考えられるものはまったくと言ってよいほど見つかっていません。ストーンサークルの中は神聖な場所だったので、マツリのたびにきれいに掃除をしたのか、あるいは、もともとマツリの道具をあまり使わなかったのでしょうか。

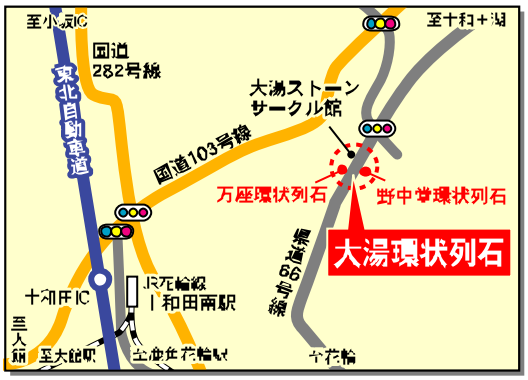
同じストーンサークルで行うマツリでも、地域によってはさまざまなマツリのやり方があったのかもしれません。これから各地のストーンサークルの調査や研究が進んでいけば、もっと詳しいことが分かってくるでしょう。

秋田のストーンサークル紹介

【大湯環状列石（国特別史跡）】　秋田県鹿角市十和田大湯字万座・字野中堂ほか

万座と野中堂という2つのストーンサークルがあります。両方のストーンサークルとも、墓石をもつ墓穴が環状に集まったものだと考えられていて、それぞれのストーンサークルの周りには建物などがたくさん作られています。

2つのストーンサークルがそのままの様子で見ることができるほか、その周囲には建物などが復元されています。遺跡はボランティアガイドに案内してもらうことができ、遺跡に隣接して体験学習などができる大湯ストーンサークル館があります。



●大湯ストーンサークル館
鹿角市十和田大湯字万座45
電話 0186-37-3822

【伊勢堂岱遺跡（国史跡）】　秋田県北秋田市脇神字伊勢堂岱

環状列石A・B・C・Dという4つものストーンサークルが見つかっています。このうち環状列石Aは直径30mほどの一重のストーンサークル、環状列石Cは45mの三重のストーンサークル、環状列石Dは36mの二重のストーンサークル、環状列石Bは長さ15mの未完成のストーンサークルです。ストーンサークルの周りには、大湯環状列石と同じように、建物が作られていたことが分かっています。

遺跡ではボランティアガイドに案内してもらうことができます。

●遺跡についての問い合わせ先
北秋田市教育委員会生涯学習課
電話 0186-62-6618

青森のストーンサークル紹介

【小牧野遺跡（国史跡）】　青森県青森市野沢字小牧野

直径35mの三重のストーンサークルがあります。ストーンサークルは最初に土地を平にならしてしてから石を並べて作っています。真ん中と外側の石の環は、縦長に置いた石の間に横に石を積み上げた「小牧野式」と呼ばれる特徴的な石の並べ方によって、とてもきれいに作っています。

平成18年度から3か年計画で、ストーンサークルのひび割れの修復や見学路の整備などの整備事業が行われています。

●遺跡についての問い合わせ先
青森市教育委員会文化財課
電話 017(734)4196

【太師森遺跡】　青森県平川市新屋遠手沢

山の斜面を平にならして、東西約45m、南北約40mのストーンサークルが作られています。ストーンサークルは、石を組んで作ったお墓と考えられる「石棺」などが集まってできていて、特に東側にたくさん見つかっています。ストーンサークルの東隣の小高い山（通称太師森）の山頂からは、ストーンサークルをよく見渡せ、ストーンサークルの延長線上に津軽富士と呼ばれる岩木山を望むことができます。出土品などは平川市文化センター内の郷土資料館（平川市光城2-30-1　電話 0172-44-1221）に展示されています。

●遺跡についての問い合わせ先
平川市教育委員会生涯学習課
電話 0172-44-1111

北海道のストーンサークル紹介

【鷲ノ木遺跡（国史跡）】　北海道茅部郡森町字鷲ノ木

最大径37mの三重のストーンサークルです。1640年に北海道駒ヶ岳が噴火した時に積もった火山灰に覆われていたため、ストーンサークルの石はほとんど動かされることがなく、ほぼ作られた当時のままの姿で残っていました。ストーンサークルの中には墓は見つかっていませんが、ストーンサークルの横には、直径12mほどの浅い穴の中に10か所の墓が作られています。

現在、ストーンサークルを整備するための計画を考えているところです。

●遺跡についての問い合わせ先
森町教育委員会社会教育課
電話 0137-42-2186

【忍路環状列石（国史跡）】　北海道小樽市忍路

長径33m、短径22mの楕円形に石を立て並べて作られたストーンサークルです。いくつかのストーンサークルの石は、江戸時代に発見されて以来、庭石などに使うために運び出されたりしました。そのため、本来の形はかならずしもはっきりとはしませんが、内側に、底に石を敷いた墓穴があったようです。

忍路環状列石については、小樽市博物館（小樽市色内2-1-20　電話　0134-33-2439）に詳しい展示があります。

●遺跡についての問い合わせ先
小樽市教育委員会生涯学習課
電話 0134-32-4111

岩手のストーンサークル紹介

【清水屋敷Ⅱ遺跡】　岩手県花巻市東和町安俵

長さ7.3m、幅6.7mに石を巡らしたストーンサークルが見つかっています。内側の2か所には1.1～2mの大きさの円形に石を敷き並べています。ストーンサークルの下には墓穴などは見つからなかったことから、マツリのために作られたものと考えられています。

ストーンサークルは、花巻市東和ふるさと歴史資料館に移築されていて、資料館で見学することができます。また、資料館には遺跡からの出土品が安俵6区遺跡出土品とともに展示されています。

●花巻市東和ふるさと歴史資料館
花巻市東和町土沢9区198
電話 0198-42-3056

【湯舟沢環状列石】　岩手県岩手郡滝沢村滝沢字湯舟沢

湯舟沢環状列石では、およそ南北25m、東西15mもの範囲に、たくさんの石を並べています。石を大きな弧状に並べたり、四角く囲った石組みを一直線に並べたりしていて、石は全体ではきれいな環状にはなりませんが、ストーンサークルの仲間と考えられています。

湯舟沢環状列石は、滝沢村の指定史跡として保存されていて、復元したものを滝沢村埋蔵文化財センターで見学することができます。

●滝沢村埋蔵文化財センター
岩手郡滝沢村滝沢字湯舟沢327-13
電話 019(694)9001

ストーンサークル以外の北の縄文遺跡 ①

北日本には、ストーンサークルのほかにも縄文文化を代表するような遺跡がたくさんあります。ここでは、そのような遺跡のうちの一部を簡単に紹介します。これらの中には遺跡公園として整備されいて、散策しながら見学できたり、遺跡を紹介する博物館やガイダンス施設などが作られているところが少なくありません。機会があればストーンサークルとともに訪ねてみてはいかがでしょう。

【北黄金貝塚（国史跡）】　北海道伊達市北黄金町

縄文時代前期（今から6000年から5000年ほど前）の大きな貝塚（当時の人たちが貝を食べた後の貝殻を捨てた場所）です。遺跡では4か所の貝塚のほか、住居跡や墓穴なども見つかっています。遺跡では本物の発掘調査と同じような体験をすることもできます。

●北黄金貝塚公園情報センター
北海道伊達市北黄金町75
電話 0142(27)2122

【三内丸山遺跡（国特別史跡）】　青森県青森市三内字丸山

縄文時代前期から中期（今から6000年ほど前から4000年ほど前）の縄文時代でも最大級のムラの跡です。遺跡では、縄文ポシェット作りなどいろいろな体験学習ができるほか、「お月見縄文祭」、「縄文秋祭り」などさまざまなイベントも行われています。

●縄文時遊館
青森県青森市三内字丸山305
電話 017(766)8282

ストーンサークル以外の北の縄文遺跡 ②

【是川遺跡（国史跡）】青森県八戸市是川字中居

「遮光器土偶」で有名な「亀ヶ岡文化」を代表する縄文時代晩期（今から3000年くらい前）の遺跡です。まるで美術品のように美しい「亀ヶ岡式土器」のほか、編みカゴに漆を塗った入れ物（藍胎漆器と言います）などの漆製品もたくさん見つかっていて、遺跡からの出土品は八戸市縄文学習館などで見学することができます。

●青森県八戸市縄文学習館
青森県八戸市大字是川字一尻31
電話 0178-96-1484

【岩井堂洞窟（国史跡）】秋田県湯沢市上院内字岩井堂

北日本を代表する縄文時代の洞窟遺跡の一つです。洞窟の中からは縄文時代の各時期の縄文土器が見つかり、何度も縄文人が利用していたことが分かっています。

洞窟内の様子は、JR院内駅の中にある院内銀山異人館に復元されているほか、異人館では出土品も展示されています。

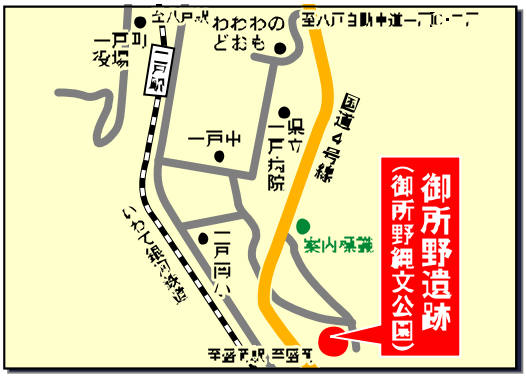
●院内銀山異人館
秋田県湯沢市上院内字小沢115
電話 0183-52-5143

ストーンサークル以外の北の縄文遺跡 3

【御所野遺跡（国史跡）】　岩手県二戸郡一戸町岩舘字御所野

縄文時代中期（今からおよそ5000年から4000年前）の巨大なムラの跡です。遺跡では、600軒以上もの住居跡やたくさんのお墓などが見つかっていて、住居跡の中には屋根を土で覆っていたことがよく分かるものもありました。

遺跡は、公園として整備されていて、縄文博物館も作られています。

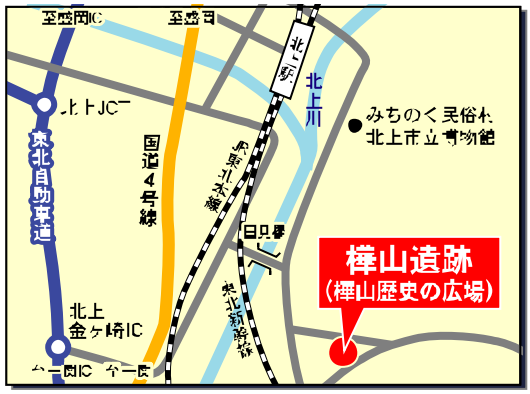


●御所野縄文公園
岩手県二戸郡一戸町岩舘字御所野2
電話 0195-32-2652

【樺山遺跡（国史跡）】　岩手県北上市稲瀬町字大谷地・字水越

縄文時代中期（今からおよそ5000年から4000年ほど前）のムラの跡と日時計のような石組みがたくさん見つかっています。石組みはお墓の墓石と考えられています。

遺跡は樺山歴史の広場として整備されていて、住居や石組みが復元されているほかガイダンス施設（縄文館）も作られています。



●樺山歴史の広場
岩手県北上市稲瀬町大谷地
電話 0197-65-5897

おわりに

この本では、ストーンサークルの調査や研究の成果などをもとに、ストーンサークルについて現在分かっていることを紹介してきました。でも、ここで紹介できなかったこともたくさん残っており、ストーンサークルには、まだまだ謎がいっぱいです。

この本を参考にストーンサークルを実際に訪ねたり、博物館や図書館でより詳しく調べたりして、ストーンサークルの謎についての新しい発見に挑戦してはいかがでしょうか。そして、はるか何千年も前の北の大地で、ストーンサークルを作り、マツリをし、暮らした人たちに思いをはせてみませんか。

この本を作るために、次の方々にご協力いただきました。

青野友哉　安達薫伸　石神敏　榎本剛治　大野亨　北風州辰　桐生正一　熊谷常正　児玉大成
瀬川司男　高杉博章　高橋义明　冨樫泰時　長尾智寿　西脇対名夫　藤井安正　藤田登　藤沼邦彦

また、この本の遺跡の写真・平面図などは、次の機関に提供していただきました。

青森県教育庁文化財保護課(三内丸山遺跡)　青森市教育委員会(小牧野遺跡)　一戸町教育委員会(御所野遺跡)　小樽市教育委員会(忍路環状列石)　鹿角市教育委員会(大湯環状列石)　北秋田市教育委員会(伊勢堂岱遺跡)　北上市教育委員会(樺山遺跡)　滝沢村埋蔵文化財センター(湯舟沢環状列石)　伊達市噴火湾文化研究所(北黄金貝塚)　田野畑村教育委員会(館石野Ⅰ遺跡)　八戸市教育委員会(是川遺跡)　花巻市東和ふるさと歴史資料館(安俵6区遺跡・清水屋敷Ⅱ遺跡)　平川市教育委員会(太師森遺跡)　北海道教育委員会(湯の里5遺跡)　森町教育委員会(鷲ノ木遺跡)　陸前高田市教育委員会(門前貝塚)

16・17頁の地図は、国土地理院発行の数値地図50000(地図画像)と数値地図50mメッシュ(標高)を使用し、カシミール3Dで作成しました。

北の縄文文化回廊づくり

北東北・北海道には秋田県の大湯環状列石や青森県の三内丸山遺跡をはじめとして、独自の北の縄文文化が花開いていました。平成15年度の北海道・北東北知事サミットで、この北の縄文文化の魅力や価値を広く情報発信する「北の縄文文化回廊づくり」を推進することが合意されました。

平成16年度からは、「北の縄文文化回廊づくり」の一環として、北海道・青森県・秋田県・岩手県の4道県が持ち回りで、縄文文化フォーラム、縄文文化展などを開催しています。これらの事業とあわせて、北の縄文文化回廊づくりを推進するための方策を4道県で検討しています。

この本は、北の縄文文化を代表するストーンサークルを紹介し、「北の縄文文化回廊づくり」について広くみなさんに知っていただくために作りました。

大湯環状列石

（表紙は伊勢堂岱遺跡の環状列石Aと大湯環状列石の日時計状組石）

編集　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王三丁目1番1号
電話 018-860-5193
発行　平成19年3月